

2013 Asian 2&4 Race

2013アジアン2&4レース
開催のご案内

8/31 Sat. 9/1 Sun.



2013 PETRONAS
アジアロードレース選手権シリーズ 第4戦



2013 CJハロービジョン
スーパーレース チャンピオンシップ 第5戦

株式会社モビリティランドは、鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)にて「2013 アジアン2&4レース」を初開催することを決定いたしました。

本大会は、多くの日本人が活躍している「2013 PETRONAS アジアロードレース選手権」と、韓国で最も権威ある自動車競技大会「2013 CJハロービジョン スーパーレース チャンピオンシップ」との同時開催です。活気に満ちたアジアのレースシーンをお楽しみください。

なお「2013 アジアン2&4レース」は、ゆうえんちモトピア入園料でご覧いただけます。



アジアロードレース選手権
スーパースポーツ600cc(SS600)



スーパーレース チャンピオンシップ
スーパー6000

開催概要

- 大会名称 2013 アジアン2&4レース
2013 PETRONAS アジアロードレース選手権シリーズ 第4戦
2013 CJハロービジョン スーパーレース チャンピオンシップ 第5戦
- (英文表記) 2013 Asian 2&4 Race
2013 PETRONAS ASIA ROAD RACING CHAMPIONSHIP ROUND4
2013 CJ Hellovision SUPERRACE Championship ROUND5
- 開催日 2013年8月31日(土)予選・9月1日(日)決勝
- 主催 (2輪) 一般財団法人 日本モーターサイクルススポーツ協会(MFJ) / 株式会社モビリティランド
(4輪) 鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC) / 株式会社モビリティランド
- 公認 (4輪) 一般社団法人日本自動車連盟(JAF)

レース紹介 & 見どころ

アジアロードレース

開幕戦レース2では藤原克昭が優勝、玉田誠が3位表彰台！！ ジャパンパワーが鈴鹿でも魅せる！！

1996年から開催され、現在は「スーパースポーツ600cc(SS600)」クラスを最高峰に、「アジアドリームカップ(ADC)」、「アンダーボーン115cc(UB115)」の3つのクラスで争われる2013 PETRONAS アジアロード選手権シリーズ。

SS600にはHonda、カワサキ、ヤマハが参戦しており、これまで日本人ライダーが合計11回のチャンピオンに輝くなどジャパンパワーの活躍が見どころだ。今年は玉田誠(Honda)が新たに参戦しており、2011年の藤原克昭(カワサキ)、2012年の清成龍一(Honda)に続く最高峰クラスでの日本人3連覇に期待がかかる。

昨年の雪辱を果たしてチャンピオンに振り返りたい藤原は、4月に行われた開幕戦マレーシア(セパン・インターナショナル・サーキット北コース)のレース1で2位、レース2では優勝。5月の第2戦インドネシア(セントウル・インターナショナル・サーキット)では表彰台を逃したが4位と5位でフィニッシュし、着実にポイントを得て現在ポイントランキングでは2位につけている。

玉田は開幕戦のレース1で5位入賞し、続くレース2ではセッティング変更が当たり3位表彰台を獲得。第2戦でも5位と4位に入り、連戦の上位フィニッシュで存在感を見せている。

鈴鹿サーキットでのアジアロードレースの開催は初だが、玉田も藤原も鈴鹿8耐で表彰台に登った経験がある。参戦した年は異なるがどちらも最高位は2位。アジアロード選手権という場での直接対決で、どちらが上位でフィニッシュするのか。見逃せない戦いになりそうだ。



開幕戦レース2で3位入賞の玉田の走り

Honda CBR250Rのワンメイクで開催されるADCは、日本を含むアジア大洋州地域からライダーを選抜し、将来のグランプリライダーを輩出することを目的として開催されている。優秀な成績を修めると世界選手権Moto3クラスへのスポット参戦の可能性もあり、トップライダーを目指す多くの若手ライダーが参戦している。

UB115はスクーターにも見える外観が特徴で、SS600と同じメーカーのマシンにより争われる。日本からは13歳の中学生ライダー真崎一輝が参戦。開幕戦のレース1で優勝した若き才能に注目だ。



ADC



UB115

スーパーレース

**6200cc、430馬力のマシンが抜きつ抜かれつの攻防！
韓流スターが参戦するGTクラスも鈴鹿で開催！！**



スーパー6000



GT

スーパーレースのメインクラスとなるのがスーパー6000。8気筒6200ccのエンジンからは、最高速度300km/hを超えるほどのパワーが出力される。すべてのチームが優勝の可能性を持つイコールコンディションで、ハイパワーマシンによる抜きつ抜かれつのレースを見ることができる。日本のF4時代に鈴鹿サーキットを走った経験がある、キム・ドンウン(インジェ・スピーディウム)の走りにも注目したいところだ。

GTクラスはFIAグループA規定に準ずるGT車両で行われ、韓国を代表するメーカー ヒュンダイを筆頭に、シボレー、ルノーの3メーカー5車種(タイヤはハンコックのワンメイク)がしのぎを削る。2013年は18台がエントリーしており、その中には日本のファンも多い韓流スター、キム・ジンピョ(シボレー)が乗るマシンもある。ジンピョは5月の開幕戦で2位表彰台を獲得。日本でもその走りでファンを魅了してくれるだろう。



キム・ドンウン
(スーパー6000)



キム・ジンピョ
(GT)